

術後に装具着用となる高齢者の入院時からのかゆみに対する介入

キーワード：高齢者、かゆみ、NRS、早期介入

永井葵(6階東病棟)

I. はじめに

コルセット・カラー(以下装具)装着による皮膚の圧迫・ムレ・擦れによりかゆみを訴えられる患者が多い。特に高齢者は加齢に伴う皮膚バリア機能・保水機能の低下に基づく角質水分量の低下によって皮膚が乾燥しており、かゆみを自覚しやすい。かゆみ止めの内服や軟膏塗布を行っているが、かゆみが治まらない患者も多い。中原らが、かゆみは日常生活に悪影響が及び、著しく QOL が低下する¹⁾と述べているように、かゆみは不眠・集中力の低下・食欲不振などの症状を引き起こし、そのストレスがかゆみをさらに増長する悪循環を生じる。この悪循環をどのように断ち切れれば良いか分からずジレンマを感じることもあった。またスタッフによりスキンケア方法が異なり統一したケアができていないこともかゆみの原因になっているのではないかと考えた。以上のことより、かゆみに対するケアを行うことは患者の QOL 向上のために重要なことである。そのため、入院時よりかゆみに対する介入を行う必要があるのではないかと考え、この研究に取り組んだ。

II 研究目的

本研究は、入院時よりかゆみに対する介入を行い、患者がかゆみを訴えることがなく快適な入院生活を送ることができるようにすることを目的とする。

IV 研究方法

1. 対象：入院時の問診にて皮膚トラブルを起こすリスクがあり、治療のため装具着用となる高齢者 3 名。

2. データ収集方法：入院時より患者の皮膚状態の観察、入院前のスキンケア方法、かゆみの有無、かゆみをもたらす内服薬の有無、採血データ(栄養状態、肝・腎機能)の確認を行い、かゆみ発生のリスクがないかアセスメントを行う。入院時にかゆみが発生するリスクがあること、搔くことはかゆみを増長させ皮膚障害を引き起こすことを説明する。退院まで毎日 1 回皮膚トラブルの有無の観察、装具内清拭を行う。清拭の際は、皮膚を擦らずホットタオルでスキナクレンを優しく拭き取った後、保湿剤を塗布する。患者に正しいスキンケア、コルセット着用方法を指導する。装具着用後、かゆみの有無を NRS で 1 日 2 回評価し、ケアスケジュールに入力する。患者の発言、皮膚の状態をカルテに記載する。

3. 倫理的配慮：看護倫理委員会の承諾を得た後、対象者または家族に本研究の目的、内容について説明する。また研究で得た情報は研究以外で取り扱わないこと、対象者が特定できる情報は載せないことを説明の上同意を得て実施した。

V 患者紹介

対象患者①：70 歳代の男性。腰部脊柱管狭窄症のため入院。入院前のスキンケア方法なし。かゆみをもたらす内服薬なし。皮膚の乾燥はなく状態は良好であったが、高齢、既往歴に糖尿病あり、入院時採血結果にて Alb 低値、腎機能低下あり、かゆみ出現のリスクがあるため介入した。

対象患者②：80 歳代の男性。腰部脊柱管狭窄症のため入院。入院前のスキンケアなし。

かゆみをもたらす内服薬なし。採血結果異常なし。高齢、既往歴に糖尿病あり、元々皮膚が弱く乾燥しており、かゆみの出現のリスクがあるため介入した。

対象患者③:80歳代の男性。腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアのため入院。入院前のスキンケアなし。かゆみをもたらす内服薬なし。採血結果異常なし。高齢、既往歴に糖尿病あり、皮膚が乾燥気味であり、かゆみの出現のリスクがあるため介入した。

VI 結果

対象患者①～③のかゆみの有無をNRSで評価したものを図に示した。

対象患者①:入院時にかゆみ予防の必要性を説明した。「普段皮膚は乾燥しないけど、コルセットが大きいからかゆみが出てくるかもしれないね。」と発言あり、ケアの必要性を理解できていた。コルセット着用後、毎日氏に指導しながらスキンケア実施。1～2日目は、かゆみ、皮膚トラブル発生なく経過した。「ゴシゴシしてしまうけどそれがかゆみの原因になるんだね。搔いたらいかんね。」と発言あり、清拭の際は皮膚をこすらないこと、搔いてはいけないことを理解されていた。3日目にコルセットの圧迫による発赤あり、NRS=4/10のかゆみが発生した。スキンケアを行い、コルセットを再装着し、症状消失した。7日目にコルセットの装着方法、装着時の注意点について説明行った。説明後、自立して行うことができていた。「保湿剤買ってもらうように頼んだ。」と発言あり、退院後もスキンケアを継続していく意欲みられた。食事は全量摂取できていた。3日目までは不眠訴えあり、ベルソムラ内服していたが、それ以降は不眠の訴えなく経過した。

対象患者②:入院時にかゆみ予防の必要性を説明した。「元々皮膚が弱いからかゆみが出るかも。」と発言あり、ケアの必要性を理解できていた。コルセット着用後、毎日氏に指導しながらスキンケア実施。2日目よりドレーン固定のためのテープ周囲にかゆみあり。またドレーンのチューブが皮膚と接触している箇所に発赤あり。チューブが当たらないように位置をずらし、コルセットを再装着した。3日目以降はドレーン抜去によりかゆみ軽減。「テレビを見たりして気をそらしているよ。」と発言あり。搔いてはいけないことを理解されていた。6日目にコルセットの装着方法、装着時の注意点について説明行った。説明後、自立して行うことができていた。「ワセリンは退院後も塗った方がいいんだね。」と発言あり、退院後もスキンケアを継続していく意欲みられた。食事は毎日全量摂取できており、不眠の訴えもなく経過した。

対象患者③:入院時にかゆみ予防の必要性を説明した。「お願いします。」と発言あり、ケアの必要性を理解できていた。コルセット着用後、毎日氏に指導しながらスキンケア実施。1日目よりかゆみの訴えなく経過した。6日目にコルセットの装着方法、装着時の注意点について説明行った。手順を説明しながら実施し、自立して行うことができていた。「退院後もつけないといけないから練習しないとね。」と発言あり、退院後もスキンケアを継続していく意欲みられた。食事は術後2日目までは3割しか摂取できていなかったが、それ以降は8割摂取できており、不眠の訴えなく経過した。

VII. 考察

1. 入院時からのかゆみに対する介入

入院時よりかゆみ発生のリスクをアセスメントし、リスクがある患者に対して介入を行うことにより、患者のかゆみは自制内で経過することができた。このことから、患者がかゆみを訴えられてからではなく、入院時から予防的に介入する必要があると考えた。対象患者②は元々皮膚が弱く、ドレーン固定のためのテープ周囲にかゆみを訴えられていたため、入院時にテープテストを実施した方が良かったのではないかと考えた。また対象者①・②はかゆみが発生した際に搔かずに看護師に相談することができていた。入院時にかゆみが発生するリスクがあること、搔くことで皮膚障害を引き起こすことを説明することで、コルセット装着後にかゆみが発生することをイメージすることができることや、患者自身がかゆみの対処方法を理解することに繋がった。また看護師にかゆみの辛さを理解してもらえているという安心感を得ることができていたのではないかと考えた。

2. かゆみの評価方法について

患者の理解力良好であり、スタッフも周知している方法であったため、適切であったと考える。

3. スキンケア方法について

スタッフにスキンケア方法を周知したことで正しいスキンケアを統一して行うことができた。またスキナクレンを使用したことで過度に体を擦ること、保湿剤を塗布することにより皮膚からの水分の蒸発が進み乾燥することを防ぐことができていた。患者のかゆみは自制内で経過し、不眠・食欲低下等の症状引き起こすことがなかった。このことから本研究のスキンケア方法は有効であったと考える。今後は患者にスキンケアの方法の指導も行っ

ていくことで退院後もかゆみのケアを継続的に行っていくように介入する必要があると考えた。

かゆみは痛みよりも耐えがたいと言われている。たとえば「痛みはある程度我慢できますが、かゆみはどうしようもないですね。」との言葉がよく聞かれる²⁾と述べられているように、かゆみは患者にとって苦痛なものであるが、その苦痛は理解されにくい。現在も疼痛コントロールに比べてかゆみのケアはあまり行われておらず、かゆみの評価方法、ケア方法についてもあまり周知されていない。今後はかゆみのケアについて周知を行い、患者のかゆみによる苦痛を理解し共感的態度で関わることで患者の QOL の向上に繋げていく必要があると考えた。

VIII. 評価

入院時よりかゆみのリスクをアセスメントし、患者にかゆみケアの必要性を理解してもらった上で、正しいスキンケア方法を実施し評価することで、患者のかゆみによる苦痛が軽減され快適な入院生活を送ることができたことに繋がった。

IX. おわりに

本研究の対象者は理解力良好である患者であったが、認知症患者など協力が得られない患者に対してかゆみ予防をどのように行っていくか今後も検討していく必要がある。また本研究のスキンケア方法がカラー装着となる患者でも有効であるか検討していきたい。

X. 参考文献

- 1) 中原真希子、古江増高：「かゆみの評価と治療効果の考え方」『薬局』、Vol. 69N06、pp. 18-23
- 2) 渡辺晋一：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 12、医学書院、pp161-163、pp. 16

図1～3に装具着用後1日2回(朝・夕)患者のかゆみをNRSで評価したものを示す。

図1

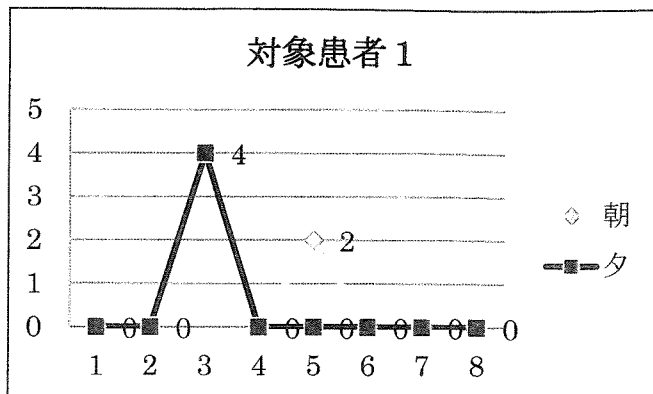


図2

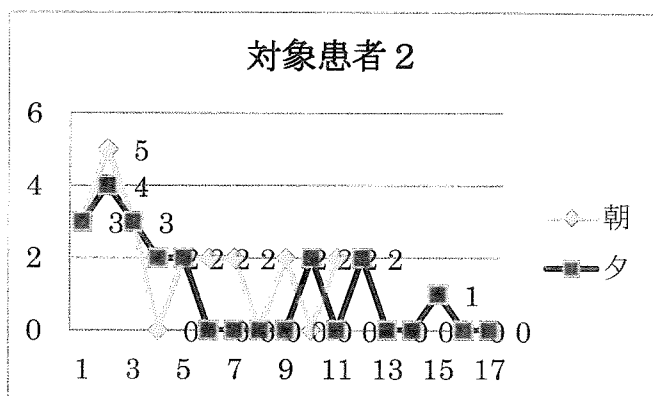


図3

